

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 施設番号  | 66-0426              |
| 施設名   | 松中保育園                |
| 施設所在地 | 〒1900033立川市一番町5-8-28 |
| 法人名   | 社会福祉法人 昭島愛育会         |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本の世界の探求(5歳児)

<テーマの設定理由>

新園舎へ移り、2階の光の広場に絵本コーナーを作った。様々な年齢の子どもたちが絵本に触れる中で、子どもたちのつぶやきから絵本の世界を再現したらどのような感じかを感じこのテーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

絵本を読む→子どもの反応を見る→つぶやきに沿った活動を取り入れ子どもたちの様子を見てさらなる展開を考える。

年間を通じて、絵本を通して子どもたちのつぶやきを取り入れ、活動にむすびつけていった。(年間活動計画に沿って行う)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 1、絵本コーナーの充実(絵本の管理ができるソフトの導入や絵本・図鑑の購入)
- 2、積み木の充実(カプラや白木の積み木の導入)
- 3、職員の積み木研修への参加
- 4、表現活動に活かせる粗大運動用遊具の導入
- 5、園外保育の充実を図った

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

職員が作ったタワーを見学した後、子どもたちがカプラで遊ぶことを楽しむようになった。お月見の時期にはお月見ウサギを読んでお月見団子を飾る台と花瓶をカプラ積み木で作った。造形展に向けては、子どもたちが「りんごかもしれない」ワンフレーズから、それぞれの「りんごかもしれない」を紙粘土で作成し、メモクリップに仕上げた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「先生どうやってタワーつくったの？」という言葉かけに、「1時間かけて先生たち5人で作ったの。」と知らせると、子どもたちはイメージしやすかった様子。

「お月見の台がないんだよね。何かないかな？」と投げかけたときにカプラで台が作れればいいんだけど、みんなが通って崩れないかな？と不安があったが、こどもたちみんなが「気を付けてってすれば？」という声があり作ってみた。片付け方も、子ども同士で考えられるようになっていった。2月の造形展に向けては、「りんごかもしれない」の絵本から、「りんごかもしれない」を作りたいという声上がり、紙粘土を使った作品作りに発展した。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年長児に対しての働きかけとして、どうやったらこの高いタワーができるかなど、方法を知らせたうえで、実践を重ねていくうちに、自分たちで大きな世界をつくることができた。2人組でつくったり、もう少し人数を入れてみようや、飾り付けてみよう。今年は導入1年目のため2月の造形展の作品が超大作であったが、次の幼児クラスの取り組みに活かしていきたい。職員が決めるのではなく、子どもの「こうしてみたい!!」という気持ちを引き出して活動を展開すると子どもたちからどんどん意見が出てきて進みやすかった。